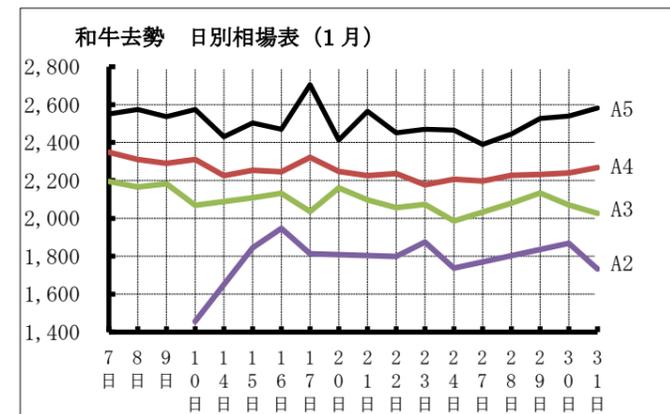


牛肉営業部

＜1月の相場動向＞

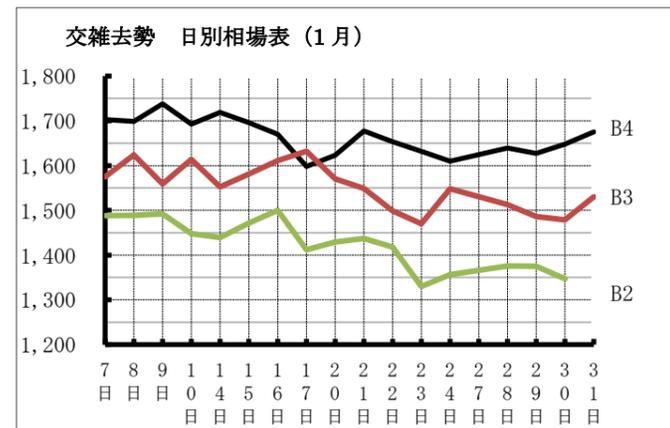
1月は例年、成人式が過ぎると相場が軟調になる傾向があるが、今年も同様の相場展開となった。加えて昨年末から葉物野菜の高騰が続いていることも豚・鶏肉に家庭内消費が集中する要因となっている。また外食産業では、年末から1月にかけてインフルエンザが流行したこともあり、新年会の規模縮小や中止が出たことが逆風となった。

その一方で、今年は全国的に寒さが続いていることから、値頃感のあるスライス材の引き合いは例年より比較的良好印象であった。



和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
A5	2,520円	-104円 96.0%	-215円 92.1%
A4	2,255円	-83円 96.4%	-219円 91.1%
A3	2,084円	-36円 98.3%	-240円 89.7%
A2	1,805円	-91円 95.2%	-69円 96.3%



交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B4	1,662円	+13円 100.8%	-126円 93.0%
B3	1,545円	+26円 101.7%	-118円 92.9%
B2	1,418円	+15円 100.1%	-101円 93.4%

乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B3	-	-	-
B2	1,117円	-	-226円 83.2%

＜2月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、12月の輸入量は前年同月比 8.6%増の3万9,227tで、うちチルドは6.4%増の1万6,004t、フローズンは、前年同月比10.2%増の2万3,223tと共に上回った。

農畜産業振興機構によると1月の牛肉輸入数量は、前年同月比19.8%減の3万4,700t (チルド14.5%減・冷凍23.1%減)といずれも減少を予測している。チルドは主要輸入先(豪州、米国)、冷凍は主要輸入先を含むどの輸入先からの輸入量が減少すると予測している。

2月は前年の輸入量が少なかった反動で5.4%増の3万2,700t (チルド12.8%増・冷凍0.6%増)で予測している。

輸入牛肉通関量	12月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	8,277	6,942 119.2%
	米国	6,374	6,815 93.5%
	その他	1,353	1,279 105.7%
	合計	16,004	15,036 106.4%
フローズン	豪州	10,531	9,022 116.7%
	米国	8,521	8,009 106.3%
	その他	4,171	4,042 103.1%
	合計	23,223	21,073 110.2%

出典：食肉速報 単位：t

＜2月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による2月の出荷予測頭数は、全体で前年比93.0%の7万8,400頭で、品種別にみると和牛は6.8%減の3万6,300頭、交雑種は0.5%増の1万9,900頭、乳用種は11.5%減の2万1,700頭と予測している。

東京食肉市場の2月と畜頭数は6,780頭を予定しています。

＜2月の牛枝肉相場見直し＞

2月は一年の中でも最も牛肉需要が低迷する月のひとつで相場が低迷しがちだが、今年も例年通りになりそうな見込みである。

好転の材料として補正予算で組み込まれた「和牛肉販売促進等支援緊急対策事業」が考えられ、「フルセット販売促進事業」、「部分肉販売促進等事業」の2事業がある。A5等級のフルセット1頭当たり15万円、A4等級は9万円、部分肉事業ではサーロイン1kg 1,800円 (前年度200円増)、また新たにサーロイン以外の部位にも同600円の奨励金が交付される。

事業者も制度活用に積極的な姿勢を見せており、相場の下支えとして期待したい。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,400~2,700	B4	1,600~1,750
A4	2,200~2,400	B3	1,450~1,600
A3	2,000~2,200	B2	1,350~1,450
A2	1,800~2,000		
乳牛去勢			
B3	1,200~1,300		
B2	1,100~1,200		

豚肉営業部

12月の全国と畜頭数は、146万4,169頭(前年同月比0.2%増)と前年を上回った。また、12月の豚肉通関数量は7万6,584t (同13.0%増)と前年を上回り、前月比では2.2%となった。内訳はチルドが3万4,568t (同12.0%増)、フローズンは4万2,016t (同13.9%増)増加となった。

2023-2024年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
12	81,152	67,663	21,381	170,120	79,774	81,796
1	80,283	72,051	20,836	173,172	80,748	68,999
2	77,558	64,527	21,439	165,686	76,853	72,013
3	77,333	74,351	23,117	166,119	75,518	73,918
4	78,976	98,780	22,670	174,059	79,317	90,840
5	76,183	94,087	24,239	189,925	74,520	78,221
6	66,310	81,660	24,750	193,156	65,692	78,429
7	71,679	86,155	23,227	195,529	73,101	83,782
8	65,651	84,078	22,108	200,290	66,675	79,317
9	68,773	78,666	21,580	201,197	69,219	77,759
10	7,9625	86,742	21,384	201,922	79,699	86,017
11	78,361	78,216	21,389	194,797	78,249	85,341
12	80,661	76,518	22,458	185,736	79,425	85,579
比	99%	113%	105%	109%	100%	105%

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

12月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	11,810	87.1%	デンマーク	3,152	99.2%
カナダ	18,924	136.6%	スペイン	12,415	106.9%
メキシコ	3,827	111.7%	メキシコ	4,248	69.8%
			アメリカ	4,907	122.5%
			カナダ	2,434	95.2%
合計	34,568	112.0%		42,016	113.9%

単位：t

＜1月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
6日	72,400	638	599	1,139
7日	71,800	642	627	1,046
8日	72,100	704	683	940
9日	71,900	639	618	1,035
10日	69,500	542	520	1,137
14日	76,500	516	504	1,106
平均	72,367/日			1,067/日

年末年始が9連休と長かったこともあり、出荷頭数は7万頭を超える日が多かった。相場は初せりとなった6日は上物638円でスタートし、昨年とのせり最終日からプラス150円と大幅な上昇となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
15日	72,500	566	546	1,157
16日	72,900	549	535	1,060
17日	70,200	569	539	1,158
20日	69,200	536	526	1,046
21日	70,200	565	542	1,054
22日	67,600	571	551	957
平均	70,433/日			1,072/日

出荷頭数は順調だったが出荷重量が大きく、上物率の低下が目立った。不必要期であることから相場は小動きの展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
23日	70,700	590	576	949
24日	66,600	628	606	1,120
27日	65,800	621	603	1,047
28日	70,200	645	605	1,085
29日	67,200	600	572	884
30日	67,300	599	582	854
31日	63,700	620	604	942
平均	67,357/日			983/日

軟調な展開が予想された相場は、群馬県で豚熱の発生や輸入ポーク入船遅れ、鳥インフルエンザの発生などによって、流通が不安定な状況となったことで上物600円絡みの高値で推移した。

＜2月の豚枝肉相場見直し＞

農林水産省による令和7年2月の肉豚出荷予測では134万4,000頭(前年同月比97.8%)と予測している。当市場の2月集荷予定せり頭数は1万8,500頭、1日あたりでは約1,027頭を見込んでいます。

農畜産業振興機構によると2月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万8,200t (同121.2%)、内訳は冷蔵輸入量が3万1,600t (同97.7%)、冷凍輸入量は4万6,600t (同144.8%)と予測。

冷蔵品輸入量は為替や現地相場高の影響等から低調に推移する中、主要輸入先のカナダ産輸入量の減少が見込まれることから前年同月をわずかに下回ると予測する。なお、3ヵ月平均は前年同期と同水準になると予測する。

冷凍品輸入量は価格優位性からブラジル産輸入量の増加が見込まれること等から、前年同月を大幅に上回ると予測する。同じく3ヵ月平均でも前年同期を大幅に上回ると予測する。

気象庁によると、2月は寒波の影響で全国的に気温が低く、日本側を中心に降雪量が多いと予測している。積雪による物流への影響や野菜価格高騰など懸念材料もあるが、下旬の受験シーズンによるロースやヒレ需要の強まりや、スーパーの2月決算による特売の動きに期待が高まる。

また、昨年から続く枝肉相場の高騰で凍結在庫の確保が十分ではなく、相場次第では在庫確保の動きが出て下支えの要因となることも予想される。供給面では一部地域で寒波による増体不良や疾病の影響がありそうだが、全体的には順調に出荷頭数が増える見込みだ。

以上のことから当市場の上物平均価格は600円前後、中物平均価格570前後の展開と予測する。

